

8-1-7 白書委員会

1. 主な活動の記録

(1) 白書委員会等の開催

対外活動・白書合同委員会開催回数 : 4回

白書委員会 WG 開催回数 : 3回

(2) 活動の目的

建設コンサルタントを広く国民一般に知らせ、コンサルタントの活動に対する国民の理解を得るための媒体として、コンサルタントを取り巻く状況、コンサルタントの課題と今後の方向、コンサルタントの取組みなどについて包括的に記述する「建設コンサルタント白書」（平成29年度版）の原稿を作成することを目的とする。

2. 白書の作成方針

白書作成の基本方針は、以下のとおりである。

- ・骨子作成時点、第一次原稿作成時点、第一次原稿意見への対応時点、第二次原稿作成時点に、理事、本部委員、支部等から広く意見を聴取し、掲載項目、構成、内容等を検討する。
- ・社会資本整備、建設コンサルタントを取り巻く外部環境の変化に呼応して、査読直前（平成29年5月末）までの最新の情報を盛り込む。
- ・「要望と提案」の【付属資料】との十分な連携を図るため、発行時期を8月末とする。

また、白書 WG では平成29年度版以降の方針について、白書の構成、ボリューム削減、執筆方法、認知度向上、デザイン化等の視点からの見直しを検討した。執筆方法は、要点の把握が容易であるという観点から「ポイントのみ四角囲み+補足説明」を基本とし、本文の表記法はより簡潔に記述するため「である調」を継続する。デザイン化に関しては平成28年度版を踏襲する。

3. 白書の目次構成

平成28年度版からの大きな変更点は、以下のとおりである。

- ・地域コンサルタントに関する記述は、1-2節と3-3節に分散していたが、「3-7 地域コンサルタントの積極的な活用」としてまとめる。
- ・「3-4-3 設計業務委託管理手引きの活用」及

び「3-4-4 適正な発注ロットの確立に向けて」は、記載目的を達成したことから削除する。

- ・「4-5 他協会との連携」を4-1-6項に移動し、「4-6 東日本大震災への対応」は、貢献誌として取りまとめたため、掲載を終了する。

第1章 建設コンサルタントを取り巻く状況

1-1 建設コンサルタントを取り巻く状況

1-2 建設コンサルタントの概要

第2章 建設コンサルタントの役割と活動

2-1 建設コンサルタントの役割

2-2 建設コンサルタントの活動領域拡大の方向性

2-3 建設コンサルタントの施工時役割の現状

2-4 CM方式の活用

2-5 設計・施工一括発注方式等への参画

第3章 建設コンサルタントの課題と今後の方向

3-1 担い手の育成、確保のための環境整備

3-2 品質の確保・向上

3-3 求められる技術力

3-4 設計等業務体系と報酬・積算体系の改善

3-5 経営環境の変化への対応

3-6 適正な地位の確立

3-7 地域コンサルタントの積極的な活用

3-8 国際競争力の強化

第4章 建設コンサルタンツ協会の概要と活動

4-1 建設コンサルタンツ協会の概要

4-2 技術者資格と継続教育

4-3 社会貢献活動

4-4 中期行動計画の推進

巻末 資料編、参考文献、索引、図表索引

建コンフォト大賞の優秀賞作品、支部のトピックス

4. 執筆・編集体制

白書委員会では、上記の目次構成を吟味した上で、項目別に担当委員会を定め、担当委員会で執筆担当委員を選定、別途項目別に編集担当委員を任命し、編集担当委員が編集とりまとめを行った。なお、平成25年度版から支部委員が第二次原稿の査読を行っている。

5. 作成部数等

平成22年度から、RCCM更新講習会受講者にも配付することし、平成28年度版の配付部数は、協会内部に約1,000、発注者に約3,000、RCCM更新講習会に約6,000の合計約10,000部である。

なお、協会ホームページ上にも全文公開した。

6. 次年度の活動について

平成29年度も平成30年度版白書の原稿作成に向けて活動する（継続）。

（白書委員会委員長 兼塚 卓也）